

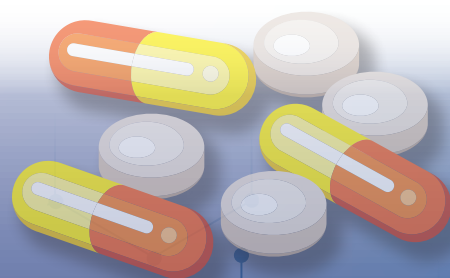
GIFU PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



岐阜薬科大学

Gifu Pharmaceutical University

2024 大学案内



踏み出そう！あなたの未来へ この岐阜薬科大学から——

医療機関、製薬企業、研究・教育機関、行政機関などにおいて、
薬のスペシャリストとして活躍する薬剤師・薬学研究者へと成長する意欲と自主性に加え、
健全な倫理観と基礎的なコミュニケーション能力を持ち、
薬学を学ぶ基礎としての高等学校教育における学力を
十分に身につけた学生を求めます。

CONTENTS

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 2 沿革 | 17 大学院 |
| 3 学長挨拶・組織 | 19 附属施設 |
| 4 入学に関する受入方針（アドミッション・ポリシー） | 20 国際交流 |
| 5 薬学科 | 21 キャンパスライフ・入試案内 |
| 7 カリキュラムマップ・コース説明 | 23 クラブ紹介 |
| 9 研究室（薬学科） | 25 進路 |
| 15 研究室（専門/基礎/寄附/共同研究講座） | 26 入試データ・奨学金 |

岐阜薬科大学の誕生・発展・充実

- 昭和 7年 4月 全国初の市立の岐阜薬学専門学校として創立
- 昭和 24年 3月 学制改革により岐阜薬科大学として新たに発足
- 昭和 28年 4月 大学院修士課程を設置
- 昭和 40年 4月 大学院博士課程を設置
- 昭和 40年 10月 キャンパスの移転と拡充(現三田洞キャンパス)
- 昭和 52年 8月 乗鞍山麓に薬草栽培のための子原川島記念演習園を開設
- 昭和 57年 10月 創立50周年を記念して、教育研究総合センターを建設
- 平成 2年 10月 市制100年記念事業として、生物薬学研究所を建設、
バイオテクノロジー部門を強化
- 平成 9年 3月 村山記念情報教育センターを開設
- 平成 10年 9月 附属薬局を開局
- 平成 11年 3月 薬草園管理舎を新築
- 平成 16年 6月 附属薬局を移転
- 平成 18年 4月 薬学教育6年制に伴い、学部を薬学科と薬科学科の2学科に改組
- 平成 22年 4月 新学舎に本部を移転
- 平成 24年 9月 創立80周年記念事業を実施
- 平成 26年 1月 博士(薬学)とMBA(経営管理修士)のダブルディグリー取得を目指す
プログラムを中京大学と提携
- 平成 29年 4月 薬科学科の学生募集を停止
- 平成 29年 12月 モバイルファーマシーの導入
- 令和 5年 3月 附属薬局を閉局



■ 創立当時の学舎



■ 三田洞キャンパス／学部1回生から3回生



■ 本部キャンパス／学部4回生以上・大学院生



学長 原英彰
President
Hideaki Hara

本学は、1932年に岐阜市立の岐阜薬学専門学校として設立され、その後、1949年の学制改革に伴い岐阜薬科大学として発足しました。以来90年に及ぶ歴史の中で、建学の精神である「強く、正しく、明朗に」をモットーに高邁な人格形成と、「人と環境にやさしい薬学、安全・安心を提供できる薬学」いわゆる「グリーンファーマシー」を基本理念とした高度な研究に支えられた薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献できる有為な薬学専門職業人の育成に努めてまいりました。

その間、約1万3千人を超える卒業生が、製薬企業や医薬品販売業等の医薬品業界、病院や薬局等の医療機関、国や地方公共団体等の行政機関、更には大学や研究機関等幅広い分野で活躍していることは、本学の誇りとするところであります。

さて、本学の教育体制としては、2017年度入学試験から、卒業後はすべての学生が国家試験を受験できる6年制の薬学科に統一しました。その上で、本学が有する長い歴史と伝統に立脚した創薬・育薬等に携わる研究者の育成を堅持するため、「医療薬学コース」と「創薬育薬コース」の2コースを新たに設置しました。

研究体制としては、「伝統の中からこそ真の改革的教育・研究が生まれる」との信念のもと、化学物質探索等の基礎薬学分野から臨床試験等の臨床薬学分野まで育薬と創薬に係る幅広い研究を進めております。また、社会のニーズに適切に対応できる研究を推進するため、民間企業出資による寄附講座及び創薬ベンチャーとの共同研究講座、併せて8講座を開設し、教育・研究を進めています。また、2008年度からは岐阜大学の医学・工学の教育・研究組織と連携し「岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科」を設置し、安全で有効な個別化治療に関する研究等を進めております。さらに名古屋大学大学院医学研究科、名古屋大学大学院創薬科学研究科及び名古屋市立大学のそれぞれの大学と本学との間に連携協定を締結し、創薬研究の連携強化、研究者の交流及び研究施設・設備の相互利用等を推進しております。

地域貢献としては、教育・研究の成果を社会に還元するため、「地(知)の拠点」として、生涯教育や市民講座を始めとする市民を対象とした教育講座や、地域の薬剤師の生涯学習支援体制を充実させるリカレント講座、更には行政や企業等の機関が主宰する科学技術プロジェクト等に参加するなど、地域社会に貢献しております。また、グローバル化する社会にあって国際交流を一層推進するため、現在中国薬科大学、フロリダ大学等の10大学と学術協定等を締結し、共同研究や学生の交流等グローバル化社会に対応できる人材の育成にも努めております。

本学におきましては「教育」、「研究」、「社会貢献」を大学の3つの柱として、高度な研究に裏付けられた教育のできる大学を目指します。また、伝統的に培ってきた創薬等に関する教育・研究の成果を世界に発信できる大学として、世界に通じる薬剤師・研究者(Pharmacist-scientists)の育成を行っていくことによって、次世代を切り拓く強い大学に向け一層発展し続けてまいります。

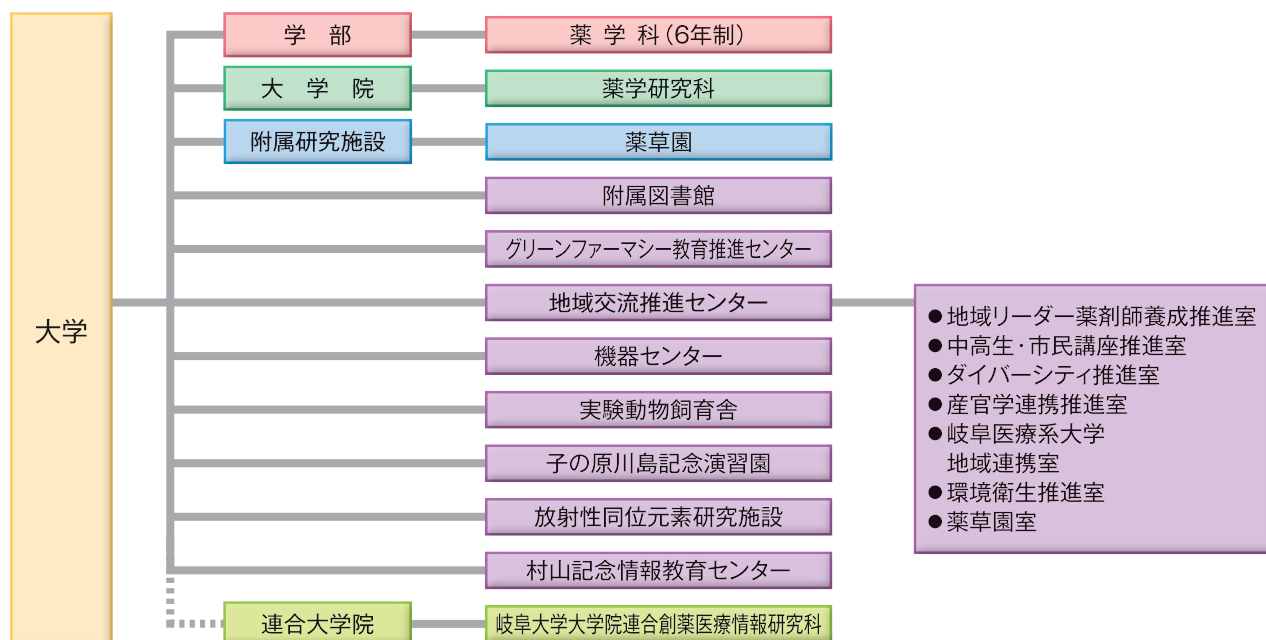
組織

教育研究組織図

調和のとれた一貫教育

充実した教育・研究施設

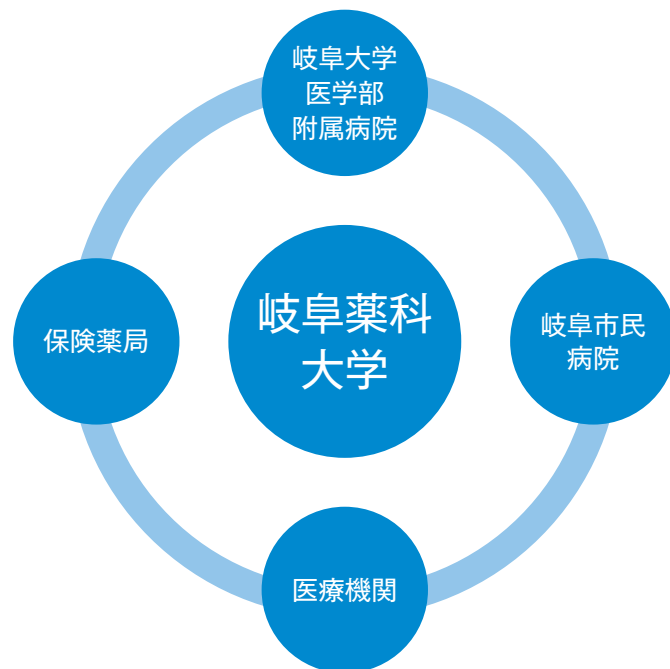
最先端をゆく大学院



病院、保険薬局との連携による実践教育・臨床研究

薬学生の実践教育および臨床研究を病院や保険薬局と連携して行っており、豊かな人間性と倫理観、確かな知識と技能、問題解決能力を併せ持つ薬剤師を養成することを目的としています。岐阜大学医学部附属病院と同じ構内にある保険薬局には大学教員を派遣し、薬局薬剤師と一緒に学生の実践教育・指導を行っています。また、保険調剤の業務を通して見出される様々な臨床的課題や薬局一般に認められる課題に着目し、その解決を目的とした研究も行っています。「安全で確実な薬物療法を提供する」という社会的要請に適った薬剤師養成を実践しています。

また、岐阜市民病院には「健康医療薬学研究室」を、岐阜大学医学部附属病院には「先端医療薬学研究室」をサテライト研究室として配置し、医師、薬剤師など医療スタッフと共同で研究を行っています。研究テーマとしては、がん薬物療法をはじめとした様々な薬物療法における医薬品の適正使用、有効性や安全性、患者の生活の質（QOL）向上などに関する臨床研究を行っています。これらの医療機関以外とも共同で研究活動を行っており、その成果を学会や論文で発表しています。



入学に関する受入方針（アドミッション・ポリシー）

岐阜薬科大学の理念

薬と健康についての高度な研究に支えられた教育により、有為な薬学専門職業人を育成し、それらを通じて社会に貢献する。

入学者選抜の基本方針

岐阜薬科大学は、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の実践教育・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に学校推薦型選抜を実施しています。本学の入試では、大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書及び面接などを採用して志願者の能力や資質を総合的に評価します。

学科の教育研究上の目的

薬学科は、薬学分野における最新の学理と技術を教授研究し、臨床に係る高度な知識・技能、実践的能力及び研究能力並びに豊かな人間性と高い倫理観を身に付けた優れた薬剤師として求められる資質を有する医療従事者、研究者及び技術者を育成することを目的とする。

岐阜薬科大学が求める学生像

本学は、その理念に共感する次のような学生を求めています。

- 医療機関、製薬企業、研究・教育機関、行政機関などにおいて、薬のスペシャリストとして活躍する薬剤師・薬学研究者へと成長する意欲と自主性をもつ学生
- 健全な倫理観と基礎的なコミュニケーション能力を持つ学生
- 薬学を学ぶ基礎としての高等学校教育における学力を十分に身につけた学生

医療チームの一員として医療に貢献する 新しい医薬品の開発から医療に貢献する 薬剤師になりませんか！



教育課程の編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

基本理念と教育目標に基づいた薬学専門職業人を育成するために、基礎教育科目と専門教育科目を有機的に関連付け、1年次から卒業年次まで効率的で一貫した教育課程を編成し、人と環境にやさしい薬学教育を実施する。

【1】教育課程

薬剤師として必要な人と環境に配慮できる豊かな人間性と確固たる倫理観・使命感を培う「ヒューマニズム教育」と「エコロジー教育」を意識した基礎および専門教育課程を編成する。

■**基礎教育** 薬学の基礎となる自然科学系科目、幅広い教養と豊かな人間性を涵養する多様な人文社会科学系科目、国際化と情報化社会に対応できる英語力を重視した外国語科目からなる基礎教育課程を編成する。

■**専門教育** 薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本とし、薬学一般、有機化学系、物理化学系、生物化学系、衛生薬学系、医療基礎薬学系、医療薬学系、創薬学系に区分した薬学専門科目を低学年から高学年にかけて系統的に配し、継続性のある専門教育課程を編成する。

■**実習** 科学的根拠に基づいて問題を発見し解決する能力、医療現場での実務および薬学研究に必要な技能を体得するための実習科目と研究力を身につける特別実習を重視した教育課程を編成する。さらに、その実施過程において、自己研鑽に努め、人材育成能力、薬剤師・薬学研究者として必要なコミュニケーション能力が身につくような教育課程を編成する。

■**医療薬学コース** 薬剤師として医療現場に必要な基礎知識・技能はもとより、実践力と研究力が身につくような教育課程を編成する。

■**創薬育薬コース** 研究者・技術者・教育者として必要な基礎知識・技能はもとより、医療に関する教養、研究現場に必要な実践力と研究力が身につくような教育課程を編成する。

【2】教育・学修方法

教育目標への到達に適した教育・学修方法として、少人数授業、アクティブラーニング、問題解決型学習等を取り入れた講義、演習、実習を行う。

【3】学修成果の評価

すべての授業科目について、それぞれの教育目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する。評価方法には、筆記試験、レポート、プレゼンテーション、実技等が含まれ、教育目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

薬学科に所定の期間在籍し、その理念と教育目標に基づいた教育課程を履修して、所定の単位を修得し、かつ下記的能力を身につけたと認められる者に学士(薬学)の学位を授与する

■薬学部の理念である「ヒトと環境にやさしい薬学(グリーンファーマシー)」を理解し、実践できる。

■薬剤師としての心構え、広い教養と豊かな人間性、コミュニケーション能力、国際化と情報化社会に対応できる英語力並びに基礎的な科学力を身につけている。

■薬物療法における知識・技能と実践的能力を修得し、薬剤師として患者・生活者本位の視点に立ち、チーム医療や地域の保健・医療に貢献する能力を身につけている。

■医療薬学コース 問題解決能力をもって、主に医療現場で必要とされる実践力や臨床研究を展開する能力を身につけている。

■創薬育薬コース 問題解決能力をもって、主に創薬科学および生命科学の研究を展開する能力を身につけている。

■生涯にわたり自己研鑽を継続し、医療を担う次世代の人材を育成する意欲と態度を身につけている。

花粉症とアレルギー

毎年、春先になると花粉情報をよく目にします。鼻炎や目のかゆみなどの症状が花粉に対するアレルギー反応であることはよく知られており、この花粉症の患者数は今や推定約2000万人とされ、国民病と言われていいます。

このアレルギーが、本来、病原微生物などから生体を守る働きをする免疫の異常によることが知られるようになったのは20世紀になってからのことです。1966年、日本人免疫学者、石松公成はアレルギーの原因となる物質が抗体というタンパク質であることを確かめ、これをIgEと名付けました。外部から花粉が侵入すると体内でIgEが作られ、IgEは肥満細胞の表面に結合します。花粉が再び体内に入ってきてIgEと反応すると肥満細胞はヒスタミンなどの化学伝達物質を放出し、それが不愉快な症状を引き起こします。本学では、肥満細胞からの化学伝達物質の放出を抑制する薬物の研究が行われ、世界で初めてトラニラストという内服できる抗アレルギー薬を開発し、さらに、IgE産生抑制作用を持つスプラタストの開発にも成功しました。

花粉症以外にも、喘息、アトピー性皮膚炎、シックハウス症候群などのアレルギー疾患が起きるメカニズムは複雑で不明な点が多いのが現状です。今後の研究の進展とともに、新たな治療法、治療薬の開発が望まれています。

一方、今では一般用医薬品(OTC薬)としても花粉症の薬を手にすることができますが、その効き目、眠気や口の渇きといった副作用の出やすさは人によって様々です。薬剤師には患者さんの訴えをよくきき適切なアドバイスをすることで医療人として活躍することが求められています。



医療現場での実務実習



■薬学科／2回生

■神奈川県

■神奈川県立横浜翠嵐高等学校出身

間々田 優弥

Interview

本学に入学してから早くも一年が経ちました。この一年で多くの経験を得た一方で、新しく始まった専門科目や実習、そしてこれからのカリキュラムに期待を膨らませながら充実した大学生活を送っています。

本学は各学年120人前後の単科大学であり、また日本全国から学生が集まるという特徴を持っています。身近に関わりを持つ多くの仲間達は、大学内外を問わず、かけがえのない存在となり、自分の世界を大きく広げてくれます。

1回生では主に基礎教育科目を学びますが、有機化学Iなど、2回生以降の学習の足掛かりとなる講義が多くあります。後期の薬学基礎実習では、座学で得た知識を簡単な実験操作としてアウトプットする機会があり、早期から将来の研究活動を意識することができます。

また、本学には、薬剤師としての将来を意識することのできる取り組みも多くあります。

薬学概論ではPBL (Problem-Based Learning, 問題解決型学習)の形式で、様々な課題に取り組みます。私達が実際に取り組んだ例として、アンメット・メディカル・ニーズ(未だ治療法のない疾患に対する医療ニーズ)を満たす為の提案があり、調べ学習やブレイン・ストーミングを基に、グループ毎に発表を行いました。この取り組みを通し、様々な課題を理解し、答えを模索することで、将来の薬剤師として明確な自覚を持つことができます。

早期体験学習では、病院、薬局、製薬会社という、将来の就職先となり得る場において、実際の活動を見学・体験します。見学前の情報収集や見学で得られた知識などを元に発表を行いました。グループ毎に見学先が異なるため、自分で体験する以外にも多くのことを学ぶことができます。実際に現場で働いていらっしゃる先輩方のお話は、薬剤師を目指す上で大きなモチベーションとなりました。

課外活動も大学生活の大きな魅力の一つです。本学では様々な部活動で精力的に活動が行われており、学生のほとんどが何らかの部に所属しています。兼部している人も多く、自分の興味のあることを楽しむことができます。私は卓球部に所属し、日々の学習やアルバイトと両立しながら、練習や大会に参加しています。

受験生の皆さんは、まだ見えない将来に、期待よりも不安を大きく抱いているかと思われます。実際私自身も様々なプレッシャーに何度も押し潰されそうになりました。ですが、本学での一年の生活を経験した今、改めて進学できたことを嬉しく思っています。皆さん、それぞれの夢の実現を胸に、辛い時ほど前を向いて頑張ってください。

皆さんと共に、楽しく大学生活を過ごせることを心待ちにしております。

医療薬学教育

医療現場に必要な
実践力を養う教育

実習科目

研究に必要な技術や
方法を体得する教育

薬学専門教育

薬学教育モデル・
コアカリキュラムを
基本とした継続性
のある専門教育

英語教育

国際化と情報化社会に
対応した英語教育

基礎教育

幅広い教養と豊かな
人間性を涵養する
基礎教育

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	薬理学I 生理学 解剖学	薬物治療学I 医薬品情報学 薬理学II, III 製剤学I, II 病態生化学I, II 化学療法学 医薬品化学 薬物動態学 生物薬剤学	薬物治療学II 臨床薬剤学 治験薬学 医療コミュニケーション 調剤学 医薬品安全性学 医療心理学		基礎臨床薬学
		総合医療薬学演習 代替医療論 化粧品健康学	実践医療薬剤学 医療経済論	医療薬学コース アドバンスト	実践臨床薬学I, II, III 地域医療実践薬学
		薬理学実習 製剤学実習 薬物動態学実習	総合臨床薬学	病院 薬局 実習	
薬学基礎実習 早期体験実習 情報処理基礎実習 健康・スポーツ実習	物理化学系実習 分析化学実習 有機化学実習 生物化学実習 生薬学実習	衛生薬学実習 感染制御学実習 薬効解析学実習	特別実習(卒業研究)		
				創薬育薬コース	
有機化学I 物理化学I 生化学I 分析化学 薬品分析化学 薬用植物学 生薬学	有機化学II 物理化学II 生化学II 機器分析化学 分子生物学 細胞生物学 微生物学 免疫学 公衆衛生学 放射化学 有機構造解析学 有機化学演習 物理化学系演習 生物化学実習	総合創薬育薬演習 薬品合成化学 創薬学I 危険物化学 応用天然物化学 高分子化学 衛生化学I, II 有機合成化学 薬用資源学 生体情報学 先端医療学 医療制度論 実践社会薬学	ドラッグデザイン演習 創薬学II 医薬品開発学	アドバンスト 創薬育薬学I, II, III	
薬学概論			臨床統計解析学 薬事法規		総合薬学演習
実用英語I, II 英語会話I, II	薬学英語I 実用英語III 英語会話III	薬学英語II, III			
一般化学 生物学 無機化学 物理学 数学 統計学 法学 コミュニケーション論 ドイツ語I, II 中国語I, II 地球環境論 健康・スポーツ科学 心理学 経済学 文学 情報処理科学 コンソーシアム科目	生命倫理学 ドイツ語III 中国語III 哲学 社会学 コンソーシアム科目				

2024年度(令和6年度)より変更予定です。

「専門教育科目」は、「学科共通科目」と「コース科目」に分けられます。

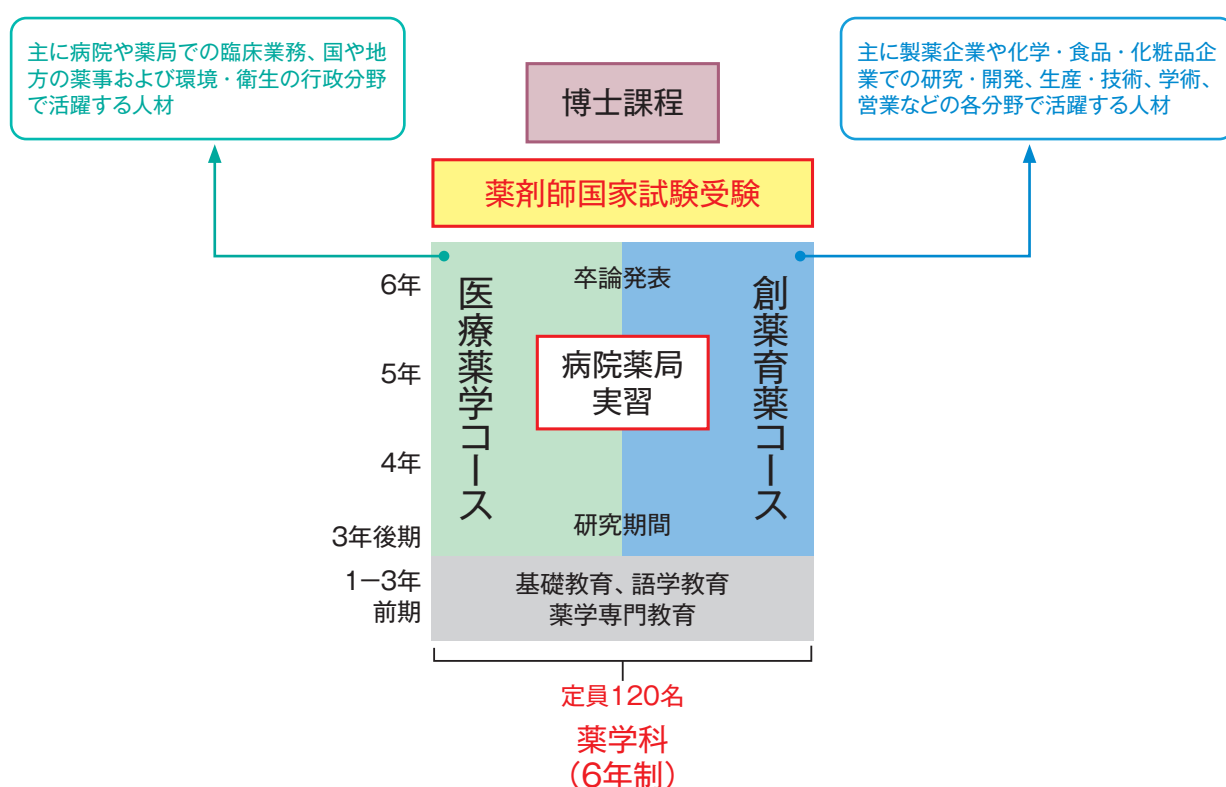
「コース科目」は、本学独自の特徴ある科目であり、本学科卒業後に薬剤師免許を取得の上、主に病院や薬局での臨床業務（高度医療、地域医療等）、国や地方の薬事および衛生行政の各分野で活躍できる人材を養成する「医療薬学コース」と、主に製薬企業や化学・食品・化粧品企業の研究者、生産・技術、学術、営業の各分野で活躍できる人材を養成する「創薬育薬コース」を編成します。3年次後期にいずれかのコース履修を選択することとなります。

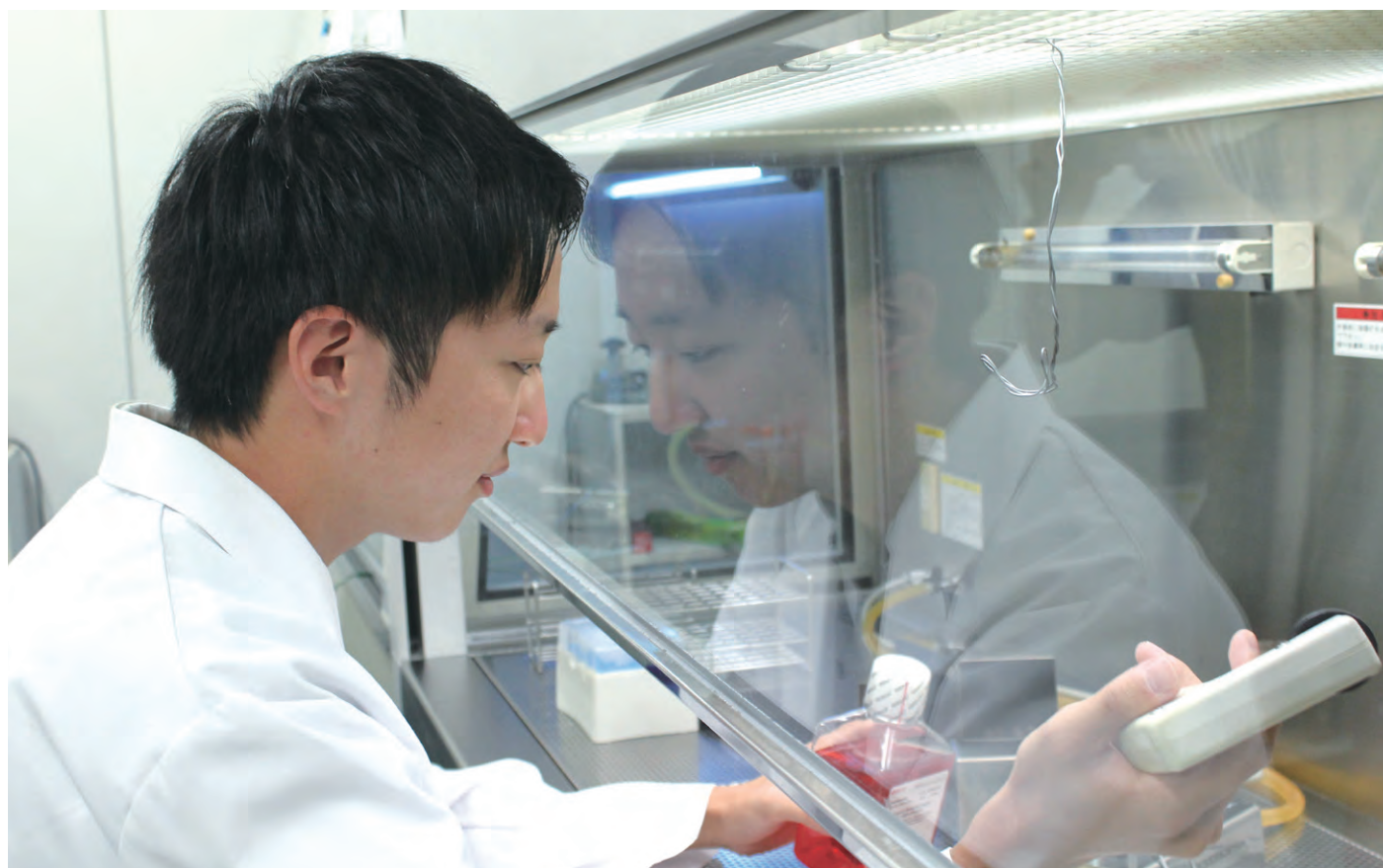
●医療薬学コース

「医療薬学コース」では、薬学の基礎から最先端の高度な薬学専門知識や技術、臨床現場に必要な技術や態度に至るまで幅広く修得し、さらに、医療人としての豊かな人間性、高い倫理観を醸成することにより、医療分野で専門的職業人として患者ベネフィットの向上に向け問題解決できる信頼される薬剤師の育成を目指します。また、行政や製薬関連分野で薬剤師の資格を必要とする薬事、生活・環境分野で活躍できる人材の育成も目指します。本コースの修了生は、薬剤師として主に病院や薬局での臨床業務（高度医療、地域医療等）、国や地方の薬事および衛生行政の各分野で活躍することが期待されます。また、大学院博士課程に進学し、より高度な知識と技能、自立して研究を進める能力を身に付け、指導的な立場で活躍できる力を養成します。

●創薬育薬コース

「創薬育薬コース」では、製薬企業における医薬品開発・育薬研究者、グローバル化に向けた臨床開発・企画戦略に貢献できる人材、レギュトリーサイエンスの専門家、行政や大学での研究者など正に研究の場でノウハウを発揮できる人材の育成を目指します。病院・薬局実習の経験を活かし、患者本位、患者ベネフィットの向上という高い使命感と倫理観を兼ね備えた次世代の自立的研究者を輩出します。本コースの修了生は、主に製薬企業や化学・食品・化粧品企業の研究者、生産・技術、学術、営業の各分野で活躍することが期待されます。また、大学院博士課程に進学し、より高度な研究開発能力を修得し、製薬企業等の研究所で新薬の創製と開発に携わることができる力を養成します。





岐阜薬科大学では、アレルギー・がん・糖尿病などの生活習慣病、精神神経疾患・感染症などの疾患の原因解明や治療法の開発、これら疾患の治療薬を目指した新規医薬品の創薬研究が行われています。

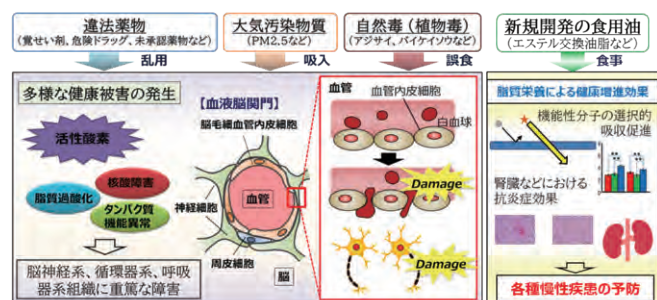
本学の研究室は、薬学科7大講座23研究室、サテライト研究室2研究室、専門教育大講座1研究室、基礎教育大講座4研究室、寄附講座7講座、共同研究講座1講座で構成されています。

創薬化学大講座	薬化学研究室	薬品化学研究室	合成薬品製造学研究室
生体機能解析学大講座	分子生物化学研究室	薬効解析学研究室	免疫生物化学研究室
	生体情報学研究室		
薬物送達学大講座	薬品物理化学研究室	製剤学研究室	
機能分子学大講座	生薬学研究室	薬理学研究室	薬品分析化学研究室
生命薬学大講座	衛生学研究室	生化学研究室	感染制御学研究室
医療薬剤学大講座	薬物動態学研究室	臨床薬剤学研究室	薬物治療学研究室
実践薬学大講座	薬局薬学研究室	病院薬学研究室	医薬品情報学研究室
	地域医療実践薬学研究室	グローバル・レギュラトリーサイエンス研究室	
サテライト研究室	健康医療薬学研究室	先端医療薬学研究室	
専門教育大講座	薬草園研究室		
基礎教育大講座	英語研究室	科学英語研究室	数学研究室
	健康・スポーツ科学研究室		
寄附講座	化粧品健康学講座	バイオメディカルリサーチ講座	地域医療薬学講座
	在宅チーム医療薬学講座	先進製薬プロセス工学講座	先端医療薬局学講座
	ナノファイバー創剤学講座		
共同研究講座	創薬イノベーション共同研究講座		

薬学科大講座研究室

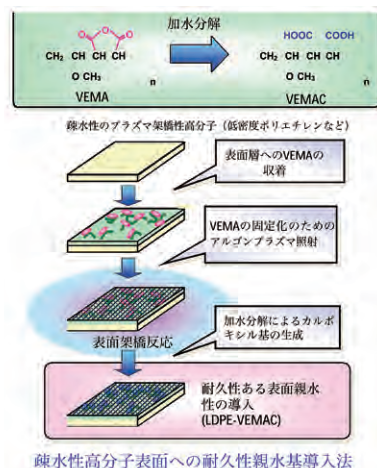
生体情報学研究室

- 1 違法薬物や大気汚染物質による脳神経損傷機序の解明
- 2 食中毒の病因物質の同定と発症機序に関する研究
- 3 抗がん耐性化関連タンパク質を標的とする新規補助化学療法剤の探索
- 4 脂質栄養による生活習慣病予防効果の検討



薬品物理化学研究室

- 1 プラズマを利用した高分子基材表面へのリン脂質自己組織化膜の構築とその応用
- 2 固体プラズマ化学の基礎と高分子の自己組織化を利用したDDSの開発
- 3 プラズマ技術を基盤とする機能性バイオマテリアル表面の創成



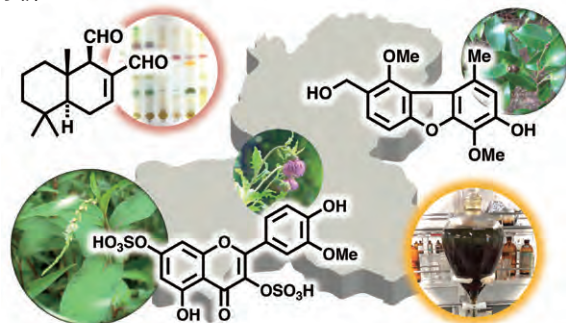
製剤学研究室

- 1 薬物のバイオアベイラビリティと服用性改善を目的とした粒子・製剤設計
- 2 ナノテクノロジーを利用した低侵襲ナノDDS製剤の研究
- 3 統合型医薬品連続生産システムを目指した製造プロセス開発
- 4 個別化製剤の実現を目指した研究



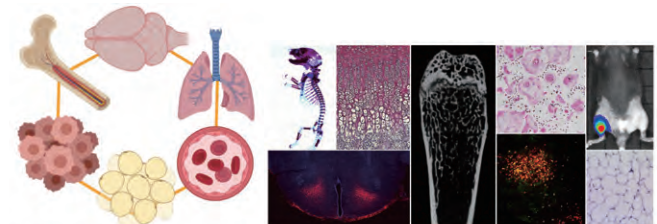
生薬学研究室

- 1 有用植物の探索と化学系統分類に関する研究
- 2 植物二次代謝産物の分離と構造解析に関する研究



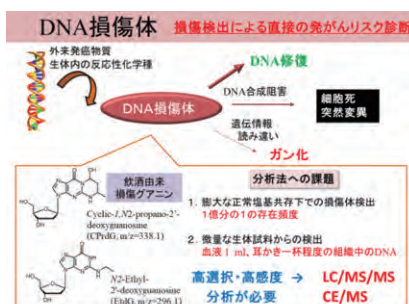
薬理学研究室

- 1 がん幹細胞を標的とした革新的抗がん剤創製に関する研究
- 2 間葉系幹細胞を標的とした難治性骨系統疾患に対する根本治療薬創製に関する研究
- 3 骨組織を基軸とした臓器連関による全身恒常性維持機構の解明研究



薬品分析化学研究室

- 1 高性能分離-質量分析システムの開発及び、その生命科学、臨床化学研究への応用
- 2 高性能キャピラリー電気泳動システムの開発と自然科学研究への応用
- 3 有機電気化学の分子科学への応用：機能性分子創製と分子解析の電気化学



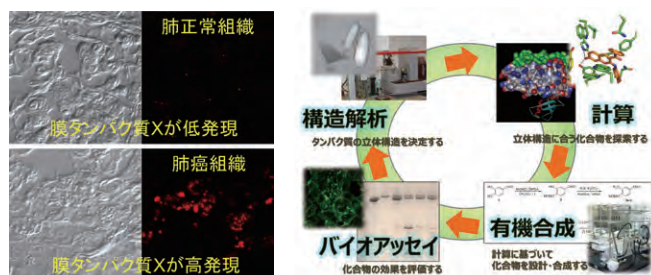
衛生学研究室

- ① 化学物質の次世代影響に関する研究
- ② in vivoイメージング技術を用いた新規毒性評価手法の開発
- ③ 生体の環境応答と疾患との関わりに関する研究
- ④ 化学物質によるアレルギー発症機構の解明とアレルギー誘導性試験の構築



生化学研究室

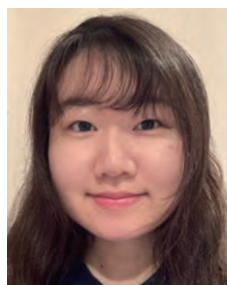
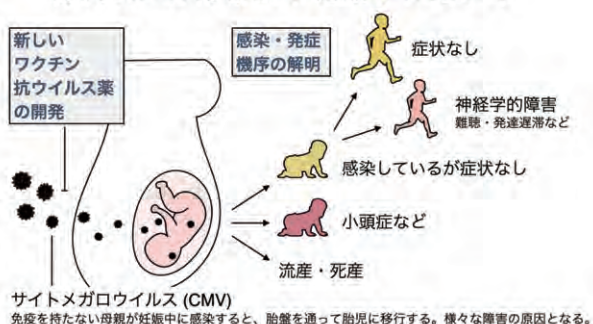
- ① 癌などの加齢性疾患における細胞間接着分子の異常発現と治療薬の開発
- ② 恒常性維持機構の異常を標的とした疾患治療薬の開発
- ③ 細胞間接着因子を標的とした表皮バリア制御法の開発



感染制御学研究室

- ① 先天性感染症の感染・発症機序の解析とワクチン開発
- ② 新規抗ウイルス化合物の探索と作用機序の解明
- ③ 粘膜免疫の活性化機序の解析とその応用

先天性CMV感染症の克服を目指して



薬学科／4回生

滋賀県

滋賀県立彦根東高等学校出身

富田 萌

Interview

岐阜薬科大学に入学して4年目になり、入学当初は長く感じていた6年間の大学生活もあっという間に折り返しを迎えました。この春から三田洞キャンパスから本部キャンパスに移り、研究室での新しい生活が始まりました。研究室では新しく学ぶことがたくさんあり忙しいですが、充実した日々を過ごしています。

三田洞キャンパスでの1年目にある早期体験実習では、病院、薬局、企業などで実際に活躍されている方から話を直接聞いたり、その仕事を見ることができ、自分の将来について考える良いきっかけになりました。2、3年と学年が上がるにつれて講義がより専門的なものになり、その難易度も高くなりますが、各科目のつながりが理解できるようになり、薬学を勉強することの醍醐味が感じられます。また、講義だけでなく実習も増え、自分で実際に手を動かしながら薬学を学ぶために必要な技術を習得していきます。理論通りに進んだ実験もそうでない実験も、仲間と協力しながら考察していく過程はとても大変でしたが、学びが実感できる楽しい毎日でした。3回生後期になると、研究室配属と同時に医療薬学コースまたは、創薬育薬コースに分かれます。どちらのコースでも薬剤師免許を取得することができますが、コースを選択することで、より自分の興味のある分野や進路に関連した講義を受けることができます。

単科大学である岐阜薬科大学の魅力としては、学生同士や先生と学生の距離感が近いことが挙げられます。実際、友人と切磋琢磨しながら日々の勉強を進めたり、先輩からも気軽にアドバイスをいただけます。先生方も、勉強のことだけでなく将来のことについても親身に相談に乗ってくださいます。3回生の後期から配属される研究室を決める際にも、研究室の見学に時間を割いていただきました。先生方のお話を伺っていると、先生方の薬学に対する情熱を感じ、勉強や研究に前向きに頑張ることができます。

受験生のみなさんは自分の将来を決める分岐点に立ち、悩みもあり大変な時期だと思います。体調に気をつけながら、最後まで乗り越えてください。来年の春にみなさんにお会いできることを楽しみにしております。

薬学科大講座研究室

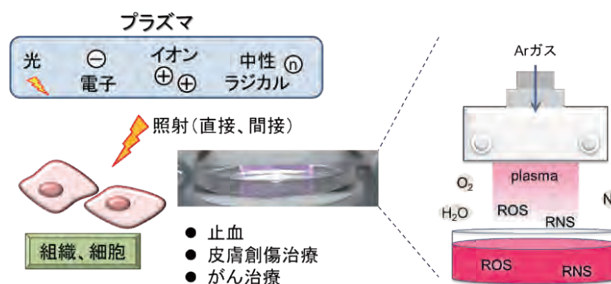
薬物動態学研究室

- ① 各種薬物測定系の確立とそれを活用した薬剤師による薬物治療への能動的な取り組みを促進するための基礎および臨床の統合的研究
- ② 危険ドラッグやその類似体の同定・測定法の確立と代謝挙動や作用メカニズムの解明に関する研究
- ③ 薬剤や健康食品素材の生体内挙動と安全性評価に関する研究



臨床薬剤学研究室

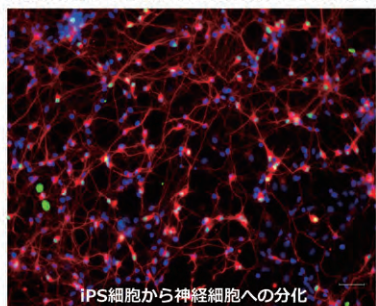
- ① 低温プラズマの医療応用
- ② 生体微量金属の動態異常と疾患に関する研究
- ③ 細胞外マトリックスの破綻とがん細胞転移との関連性



薬物治療学研究室

- ① アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経変性疾患に共通した発症機序の解明と再生・創薬研究
- ② 特発性大脳基底核石灰化症(IBGC)の病態解明と治療薬開発
- ③ 胎生期から生涯における環境要因によるエピジェネティクス攪乱の神経機能に及ぼす影響の解明

病態を正しく理解して、創薬と再生をめざす



薬局薬学研究室

- ① 薬局薬剤師の業務に関連した課題の解決に関する研究
- ② 薬局での医薬品適正使用推進に資する医薬品情報の創生・育薬研究
- ③ 薬局や薬局薬剤師に関する社会的な課題を検討する研究



病院薬学研究室

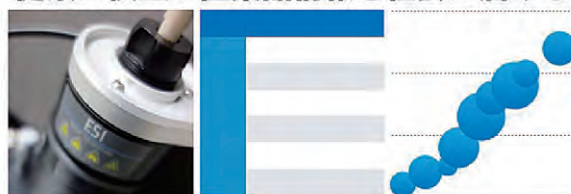
- ① 医薬品の適正使用を目的とした臨床における薬効、副作用および薬剤師業務の評価に関する研究
- ② がん医療をはじめとした薬物治療の医療経済性および安全性評価に関する研究
- ③ 医療ビッグデータ活用による新たなエビデンスの構築および解析アルゴリズムの新たな手法に関する研究



医薬品情報学研究室

- ① レギュラトリーサイエンスおよびトランスレーショナルリサーチに関する研究
- ② LC-MS を利用した生体マトリックス中薬物濃度の高感度分析法およびその臨床応用
- ③ リピドミクスによるスフィンゴリン脂質代謝物の新規疾患バイオマーカーの探索と臨床評価

健康に役立つ医薬品情報を社会に届ける



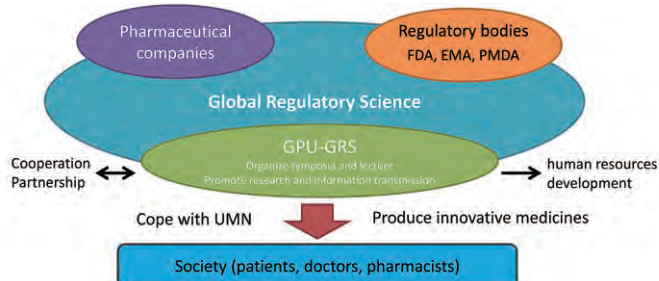
地域医療実践薬学研究室

- ① 在宅医療で期待される薬剤師の職能に関する研究
- ② 薬剤師の専門性を生かした薬物療法の適正化に関する研究
- ③ 個別化薬物療法を指向した遺伝子多型と薬物動態解析に基づく臨床薬理研究



グローバル・レギュラトリー・サイエンス研究室 Global Regulatory Science (GRS)

- ① 規制当局の医薬品製造販売許認可の判断に関する分析
- ② 規制当局の論理構造に関する分析
- ③ 製薬企業における臨床開発や薬事戦略の分析



専門教育大講座

薬草園研究室

- ① 生薬データベースの構築に関する研究
- ② いわゆる健康食品や医薬品に配合される植物の顕微鏡鑑定研究
- ③ 薬用植物栽培および生薬調製加工に関する研究



薬用植物の栽培研究



薬学科／6年生

岐阜県

岐阜県立岐阜北高等学校出身

林 果歩

Interview

本学に入学してから6年目を迎え、最高学年となりました。現在は、研究室での研究活動を中心に、仲間と共に切磋琢磨しながら充実した日々を過ごしています。

私は高校在学時の塾講師の方が本学に通われていたので、入学前より大学生活について教えて頂く縁がありました。各学年120人程と小規模ではありますが、その分一人一人と深く関わる機会があり、一生ものの仲間をつくることができるという期待を感じ、本学を志望しました。実際に、部活動や研究室の仲間、先輩、後輩との繋がりは強く、互いに励まし合いながら大変なことも乗り越えることができていると実感しています。

1年次から3年次は三田洞キャンパスで座学や実習を通して基礎から専門まで幅広く学びました。1年次には、PBL (Problem based learning) を取り入れた授業があり、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけることができました。また、早期体験実習として病院・薬局・企業見学を行う機会があり、実際、自身の将来を考えるきっかけとなりました。4年次からは本部キャンパスで研究活動を進めながら、より専門的な知識を深めていきます。5年次には薬局と病院での実習を通して、臨床で働く薬剤師の先生方から現場でしか学べない知識や手技を学ぶことができました。また、他職種とのチーム医療への参加、服薬指導や処方提案などを通して、自ら考え実行する力を身につけることができた実感しています。

本学では部活動にも力を入れています。多くの学生が複数の部活動に所属しており、実際に私も弓道部とスキー山岳部に所属しています。現役時は授業後に自主練習に向かったり、部員と食事に行ったりと、かけがえのない思い出をつくることができました。また、引退後もOB会などで先輩後輩と会う機会があり、繋がりを強く感じています。本学の卒業生の方々は、臨床現場、製薬企業、行政機関など様々な場所で活躍されているため、就職活動時にはそれぞれの業種の視点で的確なアドバイスを頂けます。

私はこれまでの学生生活を通して、薬学の専門的知識、自身で考え実行する力、一生ものの友人など、多くのものを得ることができました。これらは「岐阜薬科大学」の環境だからこそ得られたのだと実感しています。また、学生生活の中で様々なことに挑戦し、多くの成功と失敗を経験できたことは、今後の人生の糧になると思います。薬学部を志望している皆さんにも、ぜひ本学で将来に繋がるような充実した学生生活を送って頂きたいです。

サテライト研究室

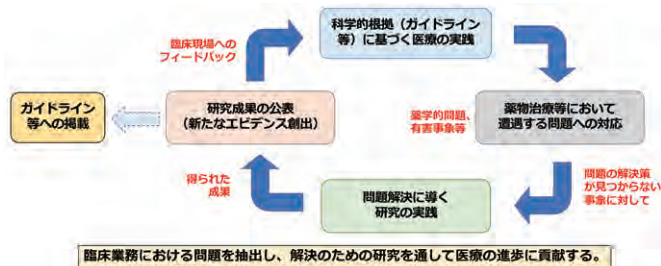
健康医療薬学研究室

- ① 医薬品の副作用発現因子および生活の質 (QOL) に対する影響に関する臨床研究
- ② 医薬品適正使用のための医療費・医療制度に関する臨床研究
- ③ 医薬品適正使用や健康増進への行動変容につながる支援・教育の確立



先端医療薬学研究室

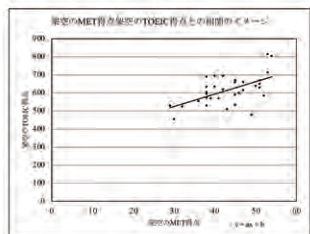
- ① 薬物治療の有効性及び安全性の向上への取り組みに関する研究
- ② がん治療 (化学療法や放射線療法時を中心とした) において発現する副作用の対策に関する研究
- ③ エビデンスー診療ギャップとその解消に関する研究



基礎教育大講座

英語研究室

- ① 第二言語習得論と動機付けについての研究
- ② 早期英語教育における教授法の分析
- ③ 理系学生を対象とした英語テスト及びドリルの開発



科学英語研究室

- ① 薬学科学専門用語のリスニングに関与するメカニズムを探索
- ② リスニングに関するアンケート分析する
- ③ タスクトレーニングによるスピーキングとリスニング能力向上



数学研究室

- ① 複素代数幾何的手法を用いた、複素力学系及びその関連分野の研究
- ② 多項式写像の族と、各写像の固定点における multiplier たちとの関係について
- ③ 薬学部における数学教育について

$$\begin{aligned}
 c_1(\lambda) &= \prod_{j \in I_1} e_{(I_j)}(\lambda_j) = \prod_{u=1}^l e_{(I_u)}(\lambda_{I_u}) \\
 &= \prod_{u=1}^l \left(\sum_{I'_u \in \mathcal{I}^*(\lambda_{I_u})} \left[\{-(\#I_u - 1)\}^{\#I'_u - 1} \cdot \prod_{I'_u \in \mathcal{I}_u} (\#I'_u - 1)! \right] \right) \\
 &= \sum_{I'_1 \in \mathcal{I}^*(\lambda_{I_1})} \cdots \sum_{I'_l \in \mathcal{I}^*(\lambda_{I_l})} \prod_{u=1}^l \left[\{-(\#I_u - 1)\}^{\#I'_u - 1} \cdot \prod_{I'_u \in \mathcal{I}_u} (\#I'_u - 1)! \right] \\
 &= \sum_{\substack{I' \in \mathcal{I}(\lambda) \\ I' \neq \lambda}} \left[\left(\prod_{I' \in \mathcal{I}'} (\#I' - 1)! \right) \cdot \left(\prod_{u=1}^l \{-(\#I_u - 1)\}^{\chi_{I_u}(I') - 1} \right) \right]
 \end{aligned}$$

健康・スポーツ科学研究室

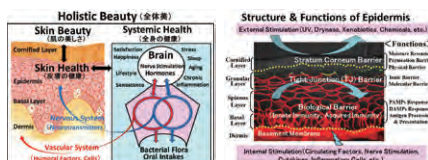
- ① 地域のスポーツ振興に関する研究
- ② 近代剣道における剣道の技法に関する歴史的研究
- ③ 剣道の初心者指導法について



寄附講座

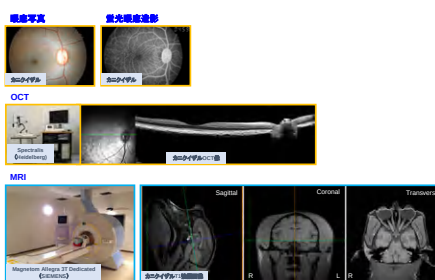
化粧品健康学講座

- ① 皮膚の健康や肌の美しさに影響する内因性メディエーターを探索する
- ② 慢性炎症と皮膚の老化の関係を in vitro 細胞培養系で明らかにする
- ③ 脱色素誘導化合物の色素細胞特異的な細胞障害メカニズムを解明する



バイオメディカルリサーチ講座

- ① 霊長類を主体とした動物実験モデルの確立
- ② 確立した動物実験モデルを用いて新薬開発の研究
→病態解析&新規化合物の薬効評価



地域医療薬学講座

- ① 移動薬局車両モバイルファーマシーを活用した災害医療支援に関する実践的研究
- ② 地域の医療機関と連携した患者支援のための基礎・臨床統合型の多施設共同研究
- ③ 医療・介護・福祉の地域連携による暮らしサポートシステムの構築とその評価に関する研究



在宅チーム医療薬学講座

- ① 在宅医療での多職種連携チーム医療の推進に関する研究
- ② 在宅医療で活躍できる薬剤師養成教育プログラムの構築に関する研究

多職種連携在宅チーム医療研修プログラム 在宅医療の現場で活躍できる薬剤師の養成



先進製薬プロセス工学講座

- ① 固形製剤連続生産の工学的研究
- ② 連続プロセス構築のための医薬品および添加剤の粒子設計
- ③ 口腔内崩壊錠、フィルム製剤等の新規固形製剤に関する研究



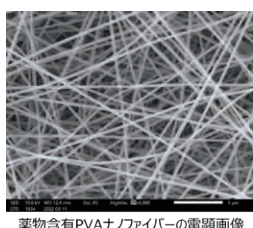
先端医療薬局学講座

- ① 薬局を基盤とした専門性の高い薬物治療実践に関する研究
- ② 薬局のDX化の実現とその評価に関する研究
- ③ 薬局薬剤師に対する研修プログラムの提供とその評価に関する研究



ナノファイバー創剤学講座

- ① ナノファイバー基剤の探索と開発
- ② 難水溶性薬物の溶解性改善を目指したナノファイバー固体分散体の開発
- ③ バイオ医薬品・核酸医薬品など新しいモダリティに対する製剤化応用
- ④ ナノファイバーを活用する経粘膜など低侵襲DDS製剤の開発



共同研究講座

創薬イノベーション共同研究講座

- ① 革新的な新薬を創出するための創薬研究の推進
- ② 研究の智慧を活かす知的財産の創出および戦略の策定と実践
- ③ 新薬の創出と開発推進構想の具現化および有為な人材の育成

創薬研究の推進



知的財産の創出および戦略の策定と実践



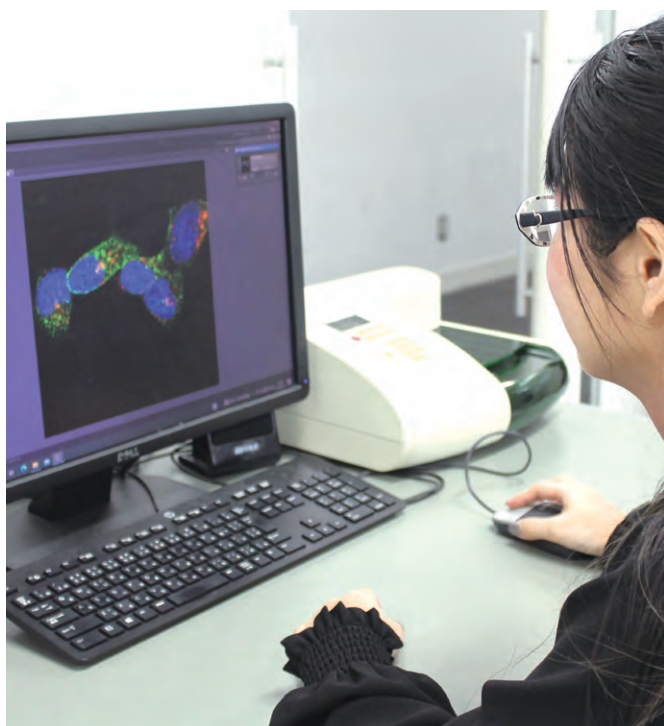
新薬開発推進および人材育成





大学院では、高度な創薬研究と創薬研究者・技術者養成を目指した薬科学専攻（修業年限2年の博士前期課程（修士課程）及び修業年限3年の博士後期課程）並びに、高度な臨床薬学研究と専門薬剤師養成を目指した薬学専攻（修業年限4年の博士課程）を設置しています。いずれの専攻分野も指導教員と連携して学術研究を行い、より高度で未知な分野での研究を行うことで、新しい知識と技術ならびに医薬品の開発や医療現場に寄与する学識を身に付けることができます。これらの勉学・研究環境は、学識・経験ともに豊かな指導教員と最新の研究機器を完備した各研究室ならびに附属研究施設により力強く支えられています。





■ 大学院／
薬学研究科薬学専攻
博士課程2年

■ 北海道

■ 札幌市立開成高等学校出身

工藤 優大

Interview

私は現在、博士課程2年生です。本学に入学してから早8年が経ち、研究室での研究活動も5年目を迎えました。私が所属している生化学研究室では、がんに対する治療標的の探索や新規治療薬の開発などを行っています。その中で私は、「オートファジーを標的とした抗がん剤の開発と臨床応用の実現」を博士課程の研究テーマとして、新規抗がん剤の作用メカニズムの解明を目的とした基礎的な研究を行っています。オートファジーが関わる疾患として、特にがんを中心に新しい治療薬の開発が行われてきましたが、これまで実用化に至っている医薬品はありません。また現在は、2人に1人ががんになる時代であり、治療により病状が改善する人は増えてきてはいるものの、治療が上手くいかない人も多くいるのが現状です。そこで、私は、がんやその他の疾患に対して、治療効果を高めることにつながる研究ができればと思い、日々研究に取り組んでいます。

当研究室では、ここ数年で博士課程に進学する学生が増えており、学部4年生から博士課程4年まで幅広い学年の学生が和気あいあいと活発に研究生活を送っています。私が本学の博士課程に進学した理由として、将来、創業研究に従事するために必要な知識や技術を修得したいと思ったことに加え、研究室の先生方や学生が作る雰囲気が良かったことが挙げられます。研究活動は大変で、忙しい日も多くありますが、その分研究が進展したり、新しい知見が得られたときの達成感が大きく、毎日が充実しています。

一般的に薬学部と言えば薬剤師免許を取得し、薬剤師として医療現場で働くことをイメージする人が多いと思いますが、薬剤師免許を取得した上で研究の道に進むことで、臨床現場を知る研究者になることができます。基礎研究と臨床をつなぐことでより良質な医療を提供できる人材になるための1つの選択肢として、大学入学後は大学院への進学も考えてみてください。

本学は単科大学であるため、総合大学のような規模の大きさはありませんが、人数が少ないからこそ同級生や先輩・後輩、先生方とより親密な関係を築くことができます。そのため、就職や学生生活などについて、先生方にも相談しやすい環境が整っていることが本学の特徴の1つです。

最後に、皆様が本学で有意義な大学生活を送られることを心よりお祈りしております。



薬草園

教育研究を目的に昭和46年に岐阜薬科大学附属施設として設置されました。

薬草の生産のためや研究材料とするために、中国の姉妹校からの寄贈を含めて117科、700種以上の薬用植物が栽培されています。

また、教育研究施設ではありますが、健康志向と生涯学習の普及に伴い昭和60年より一般公開を開始。近年は毎年5か月にわたり一般公開を実施しています。

所在地：岐阜市椿洞字東辻ケ内935

Webサイト <https://www.gifu-pu.ac.jp/yakusou/>

F A C I L I T I E S



岐阜薬科大学附属図書館

岐阜薬科大学附属図書館は、蔵書数：図書＝約4万冊、製本雑誌＝約3万冊の特に薬学系資料が充実した図書館で、学習および教育・研究支援のため、図書や雑誌などの資料の整備に努めています。また、従来の印刷物だけでなく、オンラインジャーナルやデータベースの整備にも努めており、学生・院生をはじめとする学内利用者は、オンラインジャーナルやデータベース（SciFinder）を利用できます。



子の原川島記念演習園

乗鞍岳の麓にある子の原高原の33,912㎡の敷地に研究開発センターがあり、寒冷地系薬用植物（ダイオウ、エゾウコギなど）の栽培、育種および植物分類などの教育研究実習に利用されています。

私たちの大学が、世界の一員として国際社会に貢献していくためには、学術研究面において世界水準での交流が不可欠です。本学では、海外の大学、研究機関への教員の派遣、世界各国からの教授、研究者の受け入れ等、国際交流が盛んです。

また、学生レベルでの国際交流にも力を入れており、中国薬科大学および浙江大學との学生相互交流や本学卒業生の村山 元氏のご寄付による村山記念国際交流奨学金により米国フロリダ大学への学生派遣を行っています。



中国薬科大学 訪問(令和元年9月)



フロリダ大学薬学部 訪問(令和元年9月)



浙江大學薬学院 訪問(令和元年9月)

交流大学	国名	開始時期
中国薬科大学	中国(南京)	1982年
浙江大學薬学院	中国(杭州)	1984年
シンシナティ大学薬学部	アメリカ合衆国(シンシナティ)	1991年
フィレンツェ大学薬学部	イタリア(フィレンツェ)	1993年
フロリダ大学薬学部	アメリカ合衆国(ゲインズビル)	1998年
瀋陽薬科大学	中国(瀋陽)	1999年
サラマンカ大学	スペイン(サラマンカ)	1999年
カンピーナス大学	ブラジル(カンピーナス)	2002年
シラバコーン大学	タイ(バンコク)	2009年

Interview

北井 葉月

■ 令和4年度 薬学科卒業 ■ 大阪府 ■ 奈良学園登美ヶ丘高等学校出身



令和元年9月、フロリダ大学薬学部にて7日間の研修に参加させていただきました。アメリカにおける薬学が日本とどう違うのかを体験し今後の修学に活かすことで、将来の進路を考える助けになると考えたからです。

フロリダ大学で薬学部はcollege of pharmacyと呼ばれ、生物・化学系の学部を卒業した学生が薬学部に入學し、4年間の臨床に特化したプログラムを受けます。それぞれの学年の授業に参加させていただき特に印象的だったことは、学生同士で意見を交わしている姿が多く見受けられたことです。授業自体も学生の意見を聞きながら進められていくものも多く、受け身にならず積極的に自分の意見を発信することに慣れている様子でした。

日本にはないものでcompounding pharmacyと呼ばれる患者さんに合わせて様々な薬をつくる薬局を見学しました。そこでは、テクニシャンによってカプセル型の薬が手作業で作られていたり、症状に合わせて形が工夫された薬が作られていたりしました。個別化医療が進んでいると感じ、これからますます求められるものであると思いました。マネージャーの方が自分のやりたいことを決めることができる素晴らしい場所だとおっしゃっていたことにとっても感銘を受けました。

その他にも病院の薬剤部やドラッグストア、研究室など様々な場所で実際にそこで働く方々のお話をたくさん聞くことができました。今回の研修では自分の意見を相手に伝えて議論することの大切さや薬剤師の役割は限られたものではなく広がっていくものであることを学びました。アメリカと日本ではそれぞれの医療体制によって薬剤師の役割が異なりますが、違いを知ることにより良いものにしていけると思うので、学生のうちに海外研修に行くことができたことはとても貴重な機会だったと思います。視野を広げるうえでコミュニケーション能力は求められるものであり、様々な国の人と意思疎通を図るにはやはり英語を使えることが大事であると痛感しました。今後、研究と病院・薬局実習を経験して自分がどのような形で薬学を通して社会貢献をすることができるのかを考えていきたいと思います。



キャンパスライフ・入試案内



- 入学式
- 新入生ガイダンス
- 前期授業開始

- 早期体験実習

- 夏季休暇
- オープンキャンパス
- 関西薬学生連盟競技大会
- 学生募集要項(推薦A)発表
- 大学院博士課程入学試験

4
April

5
May

6
June

7
July

8
August

9
September

- 早期体験実習
- 学外研修
- 五月祭

- 前期試験





■入学試験(推薦A)

■大学院博士課程入学試験
■後期試験

10
October

11
November

12
December

1
January

2
February

3
March

■後期授業開始
■創立記念日
■薬大祭
■早期体験実習
■学生募集要項
(推薦B・一般)発表

■学内駅伝大会
■冬季休暇

■学位授与式(学部・大学院)
■入学試験(一般)





クラブ紹介



文化系クラブ

- | | |
|-------------|----------|
| ● 植物研究 | ● 軽音楽 |
| ● 薬学研究 | ● 美術 |
| ● 写真 | ● 東洋医学研究 |
| ● ESS | ● 囲碁・将棋 |
| ● 茶道 | ● 演劇 |
| ● コーラス | ● アンサンブル |
| ● ギター・マンドリン | |





体育系クラブ

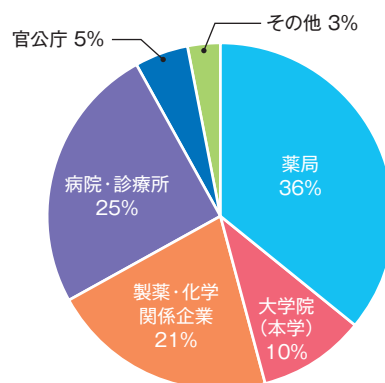
- | | |
|------------|----------|
| ● 硬式テニス | ● バレーボール |
| ● ソフトテニス | ● バドミントン |
| ● 硬式野球 | ● 卓球 |
| ● 柔道 | ● 弓道 |
| ● 剣道 | ● 空手道 |
| ● 陸上競技 | ● スキー・山岳 |
| ● サッカー | ● ゴルフ |
| ● バスケットボール | ● ダンス |



産業構造が大幅に変化し、人材要求は大きく変わりつつあります。量から質への移行にともない、本物志向の有能な人材が求められています。

学生の真価が社会で問われ、本学においてもその期待に応えることができる人材養成に努めています。就職指導は、学生の希望と適性に応じ、きめ細かく行われています。職種は、化学および製薬企業の研究・開発・学術・営業、病院や薬局の薬剤師、国家公務員や地方公務員など、多種にわたっています。毎年、ほぼ100%の就職率を示しています。なお、本学の薬剤師国家試験の合格率は毎年高い水準を誇っています。

令和4年度 薬学科卒業生 就職・進学状況(112名)



学部の主要な就職・進学先一覧(過去3年間)

〈薬局〉	〈企業〉	〈病院〉	〈官公庁〉
アインホールディングス	IQVIAサービシーズジャパン	安曇野赤十字病院	愛知県
アポクリート	アステラス製薬	和泉市立総合医療センター	大阪市
ウエルシア薬局	エーザイ	一宮市立市民病院	川崎市
エール薬局	小野薬品工業	伊那中央病院	岐阜県
杏林堂薬局	クラシエ製薬	いまきいれ総合病院	岐阜県警察科学捜査研究所
クオール	小林製薬	大垣市民病院	岐阜市
クスリのアオキ	沢井製薬	大阪公立大学医学部附属病院	静岡県
クスリのサンロード	資生堂	大阪大学医学部附属病院	東京都
ココカラファイン	住友ファーマ	刈谷豊田総合病院	奈良県
サンドラッグ	武田薬品工業	岐阜県総合医療センター	兵庫県
シミズ薬品	中外製薬	倉敷中央病院	福井県
たんぽぽ薬局	日本新薬	甲南病院	三重県
中部薬品	ファイザーR&D	小牧市民病院	
平成調剤薬局	マルホ	自治医科大学附属病院	〈大学院(本学以外)〉
瑠璃光薬局	持田製薬	市立四日市病院	東京大学大学院
		中部国際医療センター	
		東海中央病院	
		東京歯科大学市川総合病院	
		東京女子医科大学病院	
		東北大学病院臨床研究推進センター	
		豊橋市民病院	
		名古屋大学医学部附属病院	
		那覇市立病院	
		浜松医療センター	
		藤田医科大学病院	
		松波総合病院	
		宮崎大学医学部附属病院	
		山梨大学医学部附属病院	
		和歌山医療センター	
		和歌山県立医科大学附属病院	

Interview



■ 京都大学大学院
理学研究科化学専攻
有機化学研究室

■ 令和3年度 薬学科卒業

前島 咲

私は岐阜薬科大学在学中は、合成薬品製造学研究室で光を使った新しい化学反応を開発する研究をしていました。可視光エネルギーを活用して、高付加価値の有機化合物を創り出す研究です。研究はうまくいかないことが多いですが、良い結果が得られた時の心躍る楽しさは他にないものがあります。自分の好きな研究を続けるため、そしてその楽しさを人に伝えることを仕事にしたいと思い、博士号取得後は大学教員になることを目指しました。私はキャリアアップと専門性を広げること、そして人生で一度は海外のトップ研究室で研究

をしたいと思い、アメリカのThe University of Texas at Austin, Michael J. Krische lab.で1年間ポスドクを経験しました。ポスのマイクは研究に関して一切の妥協をせず、誰よりも化学を愛し、真摯に向き合うとても尊敬できる人でした。知識や技術だけでなく、研究の効率的な進め方やテーマの立案法など多くのことをマイクから学ばせてもらいました。オフの時間は、ラボメンバーやオースティンでできた友人たちと飲みに行ったり、ショッピングしたり、旅行に行ったりとテキサスライフを大満喫することができました。この1年間で得られた多くの経験、知識、友人たちは間違いなく、これからの人生でも大きな支えになると考えています。

現在私は京都大学理学研究科化学専攻、有機化学研究室で助教をしています。薬学から理学へと専門が変わりましたが、岐阜薬科大学で培った薬学の知識も活かしつつ、自分らしい研究を確立したいと思っています。岐阜薬科大学には多くの学びの機会が用意されています。もし皆さんが大学在学中に短期間でも留学する機会に恵まれたなら、絶対に掴むことをお勧めします。また博士号を持つことは、国内だけでなく海外で働くという点でも大きなメリットになります。生き方や働き方の選択肢を増やすという意味では、時間を費やしても博士号を取得する価値があると思います。岐阜薬科大学で掴むことのできる機会を無駄にせず、皆さんが充実した大学生活を送り、自分の夢を実現されることを願っております。

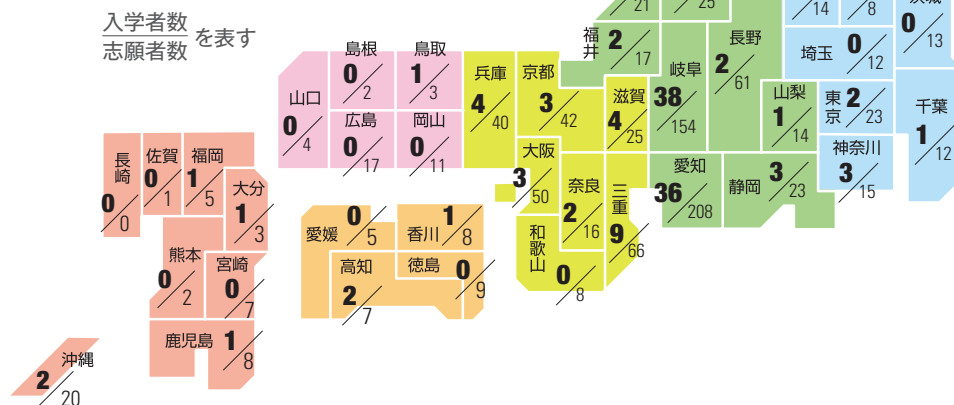
入試データ

年 度		志願者数 (A)	受験者数 (B)	合格者数 (C)	入学者数 (D)	倍率 (A/C)
平成30	薬 学 科	1,134	788	199	132	5.70
令和元 (平成31)	薬 学 科	1,152	771	199	132	5.79
令和2	薬 学 科	1,015	649	174	118	5.83
令和3	薬 学 科	946	698	190	140	4.98
令和4	薬 学 科	1,301	978	181	120	7.19
令和5	薬 学 科	1,064	769	194	138	5.48

出身高校別

志願者数・入学者数(令和5年度)

入学者数
志願者数 を表す



奨学金

■ 高等教育の修学支援に関する給付奨学金

■ 独立行政法人 日本学生支援機構の奨学金

第一種奨学金(大学)	月額 自宅20,000~45,000円, 自宅外20,000~51,000円(無利子)
第二種奨学金(大学)	月額 20,000~120,000円(有利子)
第一種奨学金(大学院)	月額 修士50,000円または88,000円, 博士 80,000円または122,000円(無利子)
第二種奨学金(大学院)	月額 50,000~150,000円(有利子)

■ 岐阜薬科大学村山記念奨学金

本学薬学科5年次に進級が確定した学生のうち、入学後の学業成績や勉学姿勢が特に優秀で、他の学生の範となる者に給付

給付人数	薬学科5、6年次生 収容人数の1割を程度とし、12名を限度とする		
給付額	年額 250,000円(返還不要)	給付期間	2年間

■ 岐阜薬科大学村山記念国際交流奨学金

国際交流の一層の進展を図り、教育・学術研究の振興に資することを目的とし、主に米国等の姉妹大学へ学生派遣を行う際に給付

給付人数	5名程度		
給付額	約 200,000円(返還不要)	給付期間	派遣1回毎につき給付



岐阜薬科大学へのアクセス

■本部・大学院

JR岐阜駅または名鉄岐阜駅から岐阜バスにて
約30分～40分

●岐阜大学・病院線または岐南町線「岐阜大学病院」行き
「岐阜大学病院」バス停下車徒歩5分

■三田洞キャンパス

JR岐阜駅または名鉄岐阜駅から岐阜バスにて
約30分～40分

●舊部三田洞線「三田洞団地」行き
「三田洞自動車学校口」バス停下車徒歩3分



岐阜薬科大学

Gifu Pharmaceutical University

本部・大学院

〒501-1196 岐阜市大学西1丁目25-4
TEL 058-230-8100 FAX 058-230-8105

三田洞キャンパス

〒502-8585 岐阜市三田洞東5丁目6-1
TEL 058-237-3931 FAX 058-237-5979

<https://www.gifu-pu.ac.jp>

